



『ハラスメント対策はお済ですか？』

伊藤 充弘 会員

＜ハラスメントの定義＞

ハラスメントとは、他者への言動により、不快にさせたり、傷つけたりすることを指す。

ハラスメントにおいて、相手に対する言動が意図的であったかどうかは関係ない。行為者自身に相手を不快にさせたり、傷つけたりする意図はなくとも、相手がそのように感じたのであれば、ハラスメントが成立する可能性がある。またハラスメントの対象は特定人物だけでなく不特定多数相手でも成立し、様々な場所やシチュエーションで起こり得るものだといえる。

＜パワハラに関する必要な処置＞

- ・社内方針の明確化と周知・啓発
- ・相談に適切に対応するための体制づくり
- ・パワハラが発生した場合の迅速・適切な対応
- ・第三者のプライバシーを保護するために必要な措置
- ・不利益な取り扱い禁止の定めと周知・啓発

＜セクハラに関する必要な処置＞

- ・ハラスメントの内容、方針等の明確化と周知・啓発
- ・行為者への厳正な対処方針、内容の規定化と周知・啓発
- ・相談窓口の設置
- ・相談に対する適切な対応
- ・事実関係の迅速かつ正確な確認
- ・被害者に対する適正な配慮の措置の実施
- ・行為者に対する適正な措置の実施
- ・再発防止措置の実施
- ・業務体制の整備など、事業主や妊娠等した労働者等の実情に応じた必要な措置
- ・当事者などのプライバシー保護のための措置の実施と周知
- ・相談、協力等を理由に不利益な取扱いを行ってはならない旨の定めと周知・啓発

＜マタハラに関する必要な処置＞

- ・社内方針の明確化と周知・啓発
- ・相談に適切に対応するための体制づくり
- ・マタハラが発生した場合の迅速・適切な対応
- ・第三者のプライバシーを保護するために必要な措置
- ・不利益な取り扱い禁止の定めと周知・啓発
- ・マタハラの原因を解消するための措置

＜ハラスメントが起こる理由と防止策＞

- ・ハラスメントに対する認識が甘いから
- ・「自分だったらこの程度はハラスメントと思わないから相手もそうだろう」
- ・「あの人と自分の仲なら何を言ってもハラスメントにはならない」
- ・社内でハラスメント対策のための制度整備がなされていない

＜コミュニケーション不足＞

ハラスメントが起こる要因としては、コミュニケーション不足も考えられる。ハラスメントは、相手の感じ方による部分も大きい問題。ハラスメントを受けた側が不快に思ったことを言いやすい環境・関係性であれば、ハラスメントをした側は反省する機会を得やすい。他方、ハラスメントを指摘しにくい環境・関係性の場合、ハラスメントの問題が顕在化せず、ハラスメントは減少しにくい。会社として、コミュニケーションを取りやすい環境を構築していくことも、ハラスメント対策になるものといえる。

＜ハラスメントの種類＞

1. セクシャルハラスメント（セクハラ） 性的な言動により、相手に不快感を与えること。
2. パワーハラスメント（パワハラ） 次の3つの要素すべてを満たす職場内の言動。
① 優越的な関係を背景とした言動であって、② 業務上必要かつ相当な範囲を超えたものにより、③ 労働者の就業環境が害されるもの。
3. モラルハラスメント（モラハラ） 道徳や倫理に反した言動による精神的な嫌がらせ。
4. マタニティハラスメント（マタハラ） 女性に対し妊娠・出産をきっかけに、精神的・肉体的な嫌がらせや解雇、雇い止めなどの不利益な取扱いのこと。「出産・妊娠を理由に嫌がらせの言動を行う」タイプと、「不利益な取扱いを行う」タイプの2種類。
5. パタニティハラスメント（パタハラ） 育児のために育児休暇や時短勤務などの制度を利用する男性社員に対して、不利益な取扱いや不快感を与える言動を行うこと。
6. アルコールハラスメント（アルハラ） 飲酒関連の嫌がらせや迷惑行為。
7. ジェンダーハラスメント（ジェンハラ） 男らしさ・女らしさなど、性別に関するイメージや差別意識に基づいて行われる嫌がらせや迷惑行為。

8. アカデミックハラスメント（アカハラ） 大学や研究機関などの学術機関において、優位な力関係をもとに、不利益を与えたり、精神的・肉体的苦痛を与えたりする行為。
9. リストラハラスメント（リスハラ） リストラ対象者に対して嫌がらせや不当な配置転換等を行うことで、自主退職するよう追い詰める行為。
10. テクスチュアルハラスメント（テクハラ） 文章上における性的嫌がらせや性差別。
11. キャンパスハラスメント（キャンハラ） 大学において行われるパワハラやセクハラなど各種ハラスメントの総称。
12. スクールセクシャルハラスメント（スクハラ） 教育機関において主に教師が行う生徒への性的いやがらせ。
13. ドクターハラスメント（ドクハラ） 医師による患者やその家族に対する不快・不適切な言動のこと。
14. カラオケハラスメント(カラハラ) カラオケの場において、歌うのが苦手な人に無理やり歌わせる行為。
15. スモークハラスメント（スモハラ） 非喫煙者に対して喫煙を強要したり、たばこの煙にさらしたりなど、喫煙に関する嫌がらせ行為。
16. ブラッドタイプハラスメント（ブラハラ） 血液型診断の印象をもとに、相手の性格や相性の決め付けを行うなどの差別的な言動。
17. テクノロジーハラスメント（テクハラ） パソコンやスマホなどのIT機器に関する取り扱いが苦手な人に対する嫌がらせや差別的な言動。
18. エイジハラスメント（エイハラ） 年齢を理由とした不快な言動や嫌がらせ。
19. シルバーハラスメント（シルハラ） 高齢者に対する肉体的・精神的嫌がらせ。
20. マリッジハラスメント（マリハラ） 未婚者に対して結婚しない理由を詮索したり、本人の意思とは関係なしに結婚への圧力をかけたりするなどの言動。
21. スメルハラスメント（スメハラ） 体臭や口臭、香水・柔軟剤の香りなど、ニオイが原因で相手を不快にさせること。
22. エアーハラスメント（エアハラ） 空調に関する嫌がらせをすることと、意図的に場の雰囲気壊す言動。
23. ソーシャルハラスメント（ソーハラ） SNSに職場の上下関係を持ち込み行われる嫌がらせ。
24. 就活終われハラスメント（オワハラ） 企業が学生に対して、内定との引き換えに就職活動を終わるよう要求すること。
25. 家事ハラスメント（カジハラ） 家事に関する嫌がらせのこと。女性に対する家事労働の押し付けや夫の家事に対する妻の執拗な駄目だし。
26. ゼクシャルハラスメント（ゼクハラ） 交際相手に対して結婚を迫ること。
27. パーソナルハラスメント（パーハラ） 個人的な趣向や容姿・クセなどパーソナルな面について文句をつけたり、いじめたりする行為。
28. ラブハラスメント（ラブハラ） 恋愛の話題で相手に精神的苦痛や不快感を与えること。

29. レイシャルハラスメント（レイハラ） 人種や民族、国籍などを理由に行われる差別的な言動。
30. レリジャスハラスメント 宗教に関する差別的な言動。宗教的な信条や慣習に対して差別的な言動を行うことや、特定の宗教への加入を強要したり、脱退を拒んだりすること。
31. ニードルハラスメント（ヌーハラ） 麺類をすする音により不快感を与えること。
32. フォトハラスメント（フォトハラ） 無許可で他人を撮影したり、撮影した写真をSNSやネット上に公開したりして行われる嫌がらせ。
33. カスタマーハラスメント（カスハラ） 顧客や取引先による理不尽なクレームや不当な要求など。
34. 時短ハラスメント（ジタハラ） 具体的な対応策の提案もなしに、ただ残業時間の削減や定時退社を強要すること。
35. ケアハラスメント（ケアハラ） 介護に関するハラスメント。働きながら介護を行う社員に対する不利益・不適切な言動や、介護サービス利用者やその家族による介護従事者への肉体的・精神的な嫌がらせ行為。
36. ソジハラスメント（ソジハラ） 性的指向や性自認に関する差別的な言動。
37. グルメハラスメント（グルハラ） 食に関する不適切・不快な言動。
38. コミュニケーションハラスメント（コミュハラ） コミュニケーションを取るのが苦手な人に会話を無理強いしたり、本人の性格を揶揄したりすること。
39. お菓子ハラスメント（オカハラ） その名前の通りお菓子に関する嫌がらせ。特定の相手にだけお菓子を配らない、お菓子を食べることを強要する、お土産の購入を強要するなど。
40. 告白ハラスメント（告ハラ） 関係性を考慮せず告白することによって、相手に迷惑をかけてしまうこと。
41. エンジョイハラスメント（エンハラ） 本人の意思を無視して、仕事などを楽しむよう強要してしまうこと。
42. セカンドハラスメント（セカハラ） ハラスメントの被害者が相談した相手の不適切な言動によって、さらに傷つけられてしまう二次的被害。
43. ハラスメントハラスメント（ハラハラ） 他人の言動について、過剰に反応し「ハラスメントだ」と主張すること。
44. ズームハラスメント（ズムハラ） Web会議システムの利用に際し発生する、リモート環境下における各種ハラスメントのこと。